



2010年11月4日

各位

東京都品川区南大井六丁目25番3号

日本通信株式会社

代表取締役社長 三田 聖二

(コード番号: 9424)

問合せ先 代表取締役専務 CFO 福田 尚久

電話 03-5767-9100 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

日本通信株式会社（以下、「当社」という）は、2010年5月13日に公表した平成23年3月期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の連結業績予想について、最近の業績動向を踏まえ、下記のとおり修正しましたので、お知らせいたします。

記

1. 平成23年3月期（平成22年4月1日～平成23年3月31日）の連結業績予想数値の修正

（単位：百万円、1株当たり当期純利益のみ円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想（A）	4,300	134	106	100	74.79
今回修正数値（B）	4,300	152	124	5	3.74
増減額（B－A）	0	18	18	▲95	
増減率（％）	0	13.4	17.0	▲95.0	
（ご参考）前期実績 （平成22年3月期）	2,565	▲1,096	▲1,190	▲1,242	▲977.34

2. 修正の理由

当社は、2009年3月の株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモとの相互接続完了後、6四半期連続で増収（政府予算関連の一時的売上は除外）を達成しています。特に、今年度上半期に市場投入したSIM製品の販売は順調に伸長し、第2四半期（7月から9月）の販売高は955百万円に達しました。

当社は、2001年にPHS網との接続により世界で初めてデータ通信MVNOを開始するとともに、b-mobileのブランドで、データ通信端末と通信サービスを一体として提供する商品を販売してきました。モバイル市場においては、通信端末の料金は極めて安価に設定され、継続的に徴収する通信サービス料金から収益を回収する事業モデルが一般的ですが、当社のb-mobile製品においても同様に、通信端末の収益性は相対的に低く、通信サービスの収益性は相対的に高いものとなっています。一方、SIM製品では、データ通信端末を提供せず、SIMという形状で通信サービスのみを提供しているため、通信端末と通信サービスを一体として提供する商品に比べて、収益性は高いものとなっています。

これを踏まえ、下半期の販売高を構成する商品ミックスを想定した結果、今年度上半期に投入したSIM

製品の販売が順調なこと、及びSIM製品の収益性が従来商品と比較して高いことから、売上高としては従来どおりの見通しであるものの、営業利益が18百万円改善する見通しとなりました。これに伴い、経常利益についても同額の改善見通しとなっています。

当社は、コンシューマ市場を今年度の成長を支える戦略市場として位置づけていますが、同市場向け製品の成長が実績として確認できたことから、第2四半期末において、同市場に集中すべく経営資源の再配分を行うことを決定しました。これに伴い、事業再構築費用113百万円を特別損失として計上した結果、当期純利益は5百万円の見通しとなりました（特別損失の計上については、10月19日に発表した「平成23年3月期第2四半期の業績見込み及び特別損失の計上についてのお知らせ」、及び本日発表した「(訂正)「平成23年3月期第2四半期の業績見込み及び特別損失の計上についてのお知らせ」の一部訂正について」をご参照ください）。

なお、当社は、日本及び米国で事業を展開しているため、為替変動の影響を受けますが、そのうち、実態に関係しない評価性の為替差益または差損は、業績予想には組み込んでいません（実態に関係する、現金の入支出を伴うものは業績予想に組み込んでいます）。

以 上

■日本通信株式会社 会社概要

- 社名： 日本通信株式会社（JASDAQ・コード9424）
- 代表者： 三田 聖二（代表取締役社長）
- 設立： 1996年5月24日
- 事業内容： ●MVNOのパイオニアとして、MVNEおよびMVNO事業を展開
●インフィニティケアの名称で法人向けデータ通信サービスをEnd to Endで提供
●bモバイルの名称でインターネット接続商品を提供
●通信電池のコンセプトで機器組み込み型通信サービスを提供
●MVNO向けに、モバイル・ネットワーク、技術、ノウハウ等を提供

*インフィニティケア、bモバイル及び通信電池は日本通信株式会社の登録商標です。文中の社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。*記載されている内容は、発表日時点の情報です。